

研究協力をお願い

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

牽引糸とクリップを用いた内視鏡的創部閉鎖法(loop10法)の有用性および安全性の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

研究対象：2022年4月1日から2023年12月31日までに当院消化器センターにおいて内視鏡的創部閉鎖法としてloop10法が行われた患者さん

研究対象期間：2022年4月から2023年12月まで

2. 研究目的・方法

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や経口内視鏡的筋層切開術(POEM)後の組織欠損の閉鎖は、出血や消化管穿孔を予防することを目的として行われます。創部が大きい場合は従来の内視鏡用クリップのみで閉鎖することは、技術的に困難な場合があります。糸での牽引を併用したクリップ閉鎖術が行われる場合がありますが、牽引するのに用いた糸を除去する方法が難しい場合があります。

当センターでは、牽引する糸を2重に輪状に接続し、クリップに固定する糸は小さな円、それに大きな円の糸を重ね、体外で大きな円の糸を切り、抜去することで牽引糸を簡単に取り外すことができるように工夫し、「loop10法」と呼称をつけました。本研究の目的は、「loop10法」の有効性と安全性について検討することです。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから、2024年12月31日まで。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2022年4月1日から2023年12月31日までに当院消化器センターにおいて内視鏡的創部閉鎖法としてloop10法が行われた患者さんの診療録の中から、有用性および安全性の検討に必要な年齢、性別、臓器、内視鏡治療内容の種類、閉鎖手技に要した時間、術中有害事象の有無、術後の合併症の有無を調査項目とします。

4. お問い合わせ先

昭和大学江東豊洲病院

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：江東豊洲病院消化器センター

氏名：井上 晴洋

住所：〒135-8577 東京都江東区豊洲5丁目1-38

電話番号：03-6204-6000

研究責任者：井上 晴洋